

12月11日(土)、島民ホールにて、「海士と大地の守人の対談」(海士町教育委員会主催)が開催されました。これは、山内道雄町長と、有機野菜の流通で有名な「大地を守る会」の藤田和芳会長が、【「地域活性」×「一次産業」=残したものを自分たちで守るために】をテーマに対談を行うイベントで、地元企業「巡の環」の協力により実現しました。

海士と大地の守人の対談

元気な海士

地域活性化や産業振興のための活動、パワー溢れる海士人たちの活躍を掲載！

当日は、インターネットを活用して福岡や京都など各地会場と繋ぎ、対談の様子を同時中継して、双方向のやりとりをしながらイベントを進行しました。去年まで地産地商課で活躍し、現在は大分の実家で家業を継いでいる後藤隆志さんの顔も、スクリーンに登場。海士側ともスムーズに会話し、ホールでは拍手喝采が起こっていました。

会場に集まった町民は100人を越え、観客席はほぼ満席。また、全国各地でこの対談に関心を持ってくださる方々、海士の食材を通販で取り寄せて食卓を囲みながらネット中継を見て下さっている方々など、多くの皆さまからツイッター(※)でさまざまなコメントを寄せていただきました。

※ツイッター：インターネットを通じて短文(つぶやき)を投稿し共有できるサービス



(←) 対談の様子。中央左から、山内町長、藤田会長、司会の阿部裕志さん(巡の環)。「第一次産業がもっと大事にされる社会にしたい。有機農業は多様性を認めること。それは生き方にもつながる」(藤田会長)、「足下を見直すことが一番最初。当たり前だけど、自分たちの町を好きになることが全てのスタート」(山内町長)などの多くの名言に、ツイッター等で共感コメントが寄せられました。

このイベントは教育委員会が主催し、交流事業の一環として実施しましたが、対談形式は初めてで、しかもその様子をインターネットで全世界に発信するという画期的な試みでした。地域共育課の松前課長は、「巡の環の協力のもと無事成功して本当に良かった。対談の中身も共感できる部分が多々あり、島内外からも反響がありました。これもひとえに、今まで培ってきた交流事業のネットワークと、海士ファンの皆様方のご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。これからも交流事業の意義を再確認し、大切にしていきたいです」と語っています。

このイベントを応援して下さいましたすべての皆様、誠にありがとうございました。関係者の皆様、お疲れさまでした。

★対談を録画した動画はこちらでご覧になれます⇒ <http://www.megurinowa.jp/amatodaichi/>



食の感謝祭

海の幸や山の幸、豊かな食は島の宝。その恵みに感謝を捧げるイベント『第3回食の感謝祭』(観光協会主催)が、11月7日、隠岐神社にて開催されました。厳粛に執り行われた奉納の儀では、生産者をはじめとする来賓の方々によって、島の旬の食材が奉納されました。また、町内の飲食店・民宿・生産者の方々のご協力により、さまざまな美味しいもんを売るブースが22店、26種類ものメニューが登場し、会場は大賑わいでした。隠岐牛の串焼きや隠岐牛サンドには、相変わらずの大行列。中里「うをさ」のバラ寿司も不動の人気で、あつという間に完売しました。午後からは島前神楽やカラオケ大会も行われ、さわやかな秋晴れの下、大勢の町民が集い、なごやかな時間を過ごしました。

隠岐しげさ節コンクール&キンニャモニャ踊り普及まつり

第14回隠岐しげさ節コンクール(併せてキンニャモニャ踊り普及まつり)東京大会が、11月20日、東京都豊島区公会堂で盛大に開催されました。

式典では、海士町観光大使でもある小沢千月実行委員長から、「大会の目的は沢山の皆様方に隠岐を訪れていただくことにあります」との挨拶がありました。誠に有り難く、先生や関係者の皆様方の隠岐や海士町への篤い思いに感謝・感謝の一日となりました。

今年はいよいよ15回を迎えます。旧年以上の盛大な大会となります。心から願っています。実行委員会の皆様、本当に有難うございました。

(副町長 澤田恭一)



海士でチャリティプロレス!

12月6日(月)、島民ホールにて、アジアプロレス主催のチャリティプロレスが開催されました。我が町は全日本チャンピオンが誕生するなどレスリングに縁が強いですが、「プロレスは滅多に見ることができない!」と、たくさんの町民の方が足を運ばれ、迫力と笑いで素敵な時間を過ごされたと思います。

今回はチャリティということでチケット売上げの一部を社会福祉協議会に寄附していただきました。アジアプロレス様と町民の皆さまの志を社会福祉に使わせていただきます。ありがとうございました。
(海士町社会福祉協議会事務局長 片桐一彦)



海士町民、ちびっこも大人も飛び入り参加!! いつのまにかあの方がレフェリーに...

あま光ネット

ついに開通第1号!

住民の皆さまには、昨年から始まった海士町全域光ケーブルネットワーク化(※詳細は町長の年頭所感を参照)に伴う道路通行規制や宅内工事にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

3月末まで順次、皆さまのお宅でも引込工事を行い、光がつながっていきます。引き続き通行規制や宅内工事にご理解とご協力をお願いいたします。

電柱に光ケーブルを敷設する本線の整備が終了し、宅内への引込工事が本格化してありますが、このたびいに北分地区の熊谷区長さん宅まで光ケーブルがつながり、光サービス開始第一号となりました。

※光ケーブル切替によるテレビ放送サービス(地上波デジタル放送受信)はまだつながっておりません。工事日等詳細が決まりましたらご案内させていただきます。

従来は電話機と電話番号でひかり電話も使えるようになります。操作も今まで通りです。IP告知システムは、サービス開始は4月頃ですが、サンプル情報を配信していますので、操作に慣れていただくためにも気軽に触れてみて下さい。操作は非常に簡単。画面をタッチするだけで、音声や文字、画像などにより、さまざまなお知らせ情報を得ることができます。



IP告知システムなど、新たに設置した機器類。テレビ電話機能を使って地区放送のデモンストラーションをしている熊谷さんの様子。

寒シママメ漬け丼



島の食文化をベースに、
肝醤油など独自の工夫で
完成した「ふるさと海士」の
オリジナル丼。ひと味違う！

- 島内では、菱浦港の船渡来流亭で召し上がっていただけます。
- 島の総合通販サイト「島風生活。」では『寒シママメ肝醤油漬け』を販売中です。ご飯に載せれば漬け丼の出来上がり。ぜひご自宅どうぞ！
⇒ <http://www.shimakazelif.com/>

全国ご当地どんぶり選手権出場！ 山陰から唯一の参戦。決戦会場は東京ドーム！

海士でとれた新鮮なシママメを使った『寒シママメ漬け丼』が、東京ドームで1月16日まで開催の「第2回 全国ご当地どんぶり選手権」に出場しています。

この選手権は、全国20種類の丼が会場で販売され、来場者の投票によりナンバー1が決まるというもの。海士は観光協会のメンバーが中心となって『漬け丼』を販売&PRし、全国1位を狙っています。

真冬が一番美味しい時期のスルメイカ、寒シママメ。この『漬け丼』でたっぷり載せられる具は、新鮮なシママメを肝醤油で和えたもので、シママメの甘さ、やわらかさ、肝醤油と絡み合う深い味わいが絶品です！

鮮度と風味を保つ凍結技術「CAS」により旬のシママメを冷凍し、島でとれたその味そのままに、東京ドームへご来場の皆さまへお届けしています。

この広報1月号の発行日は、まだギリギリ選手権開催中のみならず、島からは投票できず残念ですが、本土におられる方で可能な方は、ぜひ東京ドームへ足を運んで下さい。そして美味しい海士の『漬け丼』を堪能していただいて、温かい1票をお願いいたします！

海士レスリングクラブ

島根県レスリング選手権大会（11月14日、松江市）に、海士レスリングクラブ（AWC）から19名が参加。キャプテンの中村航太くん以下、チーム一丸となって熱戦を繰り広げました。

また「中四国少年レスリング選手権」（11月27・28日、周南市）ではAWCから5歳の澤谷ゆなちゃんらが幼年の部・19kg級に出場し準優勝しました。「ゆなの前向きな気持ちとライオン溢れる戦いに感動した」とお母さん。レスリングを通して着実に成長している子どもたち、今年も頑張ってください！



【シリーズ】循環する島を目指して① 「私たちの出したゴミはどこへ行く？」

私たちが出すゴミ。そのゆくえをご存知ですか？

まず菱浦の清掃センターに集められ、「燃えるゴミ」、「燃えないゴミ」、「資源ゴミ」の3つに分けられます。そして、その一部が最終的に向かうのが最終処分場。海士の南に位置する、堤（つつみ）にあります。

家庭から出るゴミの9割が燃えるゴミです。燃えるゴミを燃やした後、残った灰が最終処分場に行きます。実際に最終処分場を見に行くと、焼却した灰、陶器、ボード、プラスチック、畳、燃え残ったサザエの殻、まだ使えるようなコップなどがありました。

海士町の最終処分場は、あと約10年で満杯になると言われており、横から見るとすでに半分までできていることが良く分かります。私たちが出すゴミは、魔法のように消えてなくなるのではなく、最後の最後までしっかりと残っているのです。

皆さんは、この現状をどう思われますか？今回からシリーズで海士のゴミや環境についてお伝えします。ご意見お待ちしております。

（環境整備課・教育委員会）



清掃センター
（菱浦）

燃えるゴミ
燃えないゴミ

一部



最終処分場（堤）

■ご意見は 2-1222まで。
シリーズ担当：井上